



NATIONAL AINU MUSEUM

vol.007
2022 JANUARY

アヌコ アイコマケル ソコ 国立アイヌ民族博物館 ニュースレター アヌアヌ

ANUANU



「漆器(P.5)」

基本展示の注目ポイント⑦
基本展示室の見方
基本展示室をより詳しく知るために

見て見て！館内サイン⑦

探究展示 テンパテンパ⑤

教育普及活動報告

博物館Pickup!

イベント報告

調査研究最前線①

ウポポイってこんなところ④

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

基本展示の注目ポイント⑦

基本展示室の見方 基本展示室をより詳しく知るために

基本展示室は六つの大テーマでさまざまな資料が展示されています。

ここでは資料と来館者をつなぐ、基本展示室までのアプローチ、展示室の歩き方、キャプションの見方、そして多言語はどのように翻訳されているのかなどを紹介します。

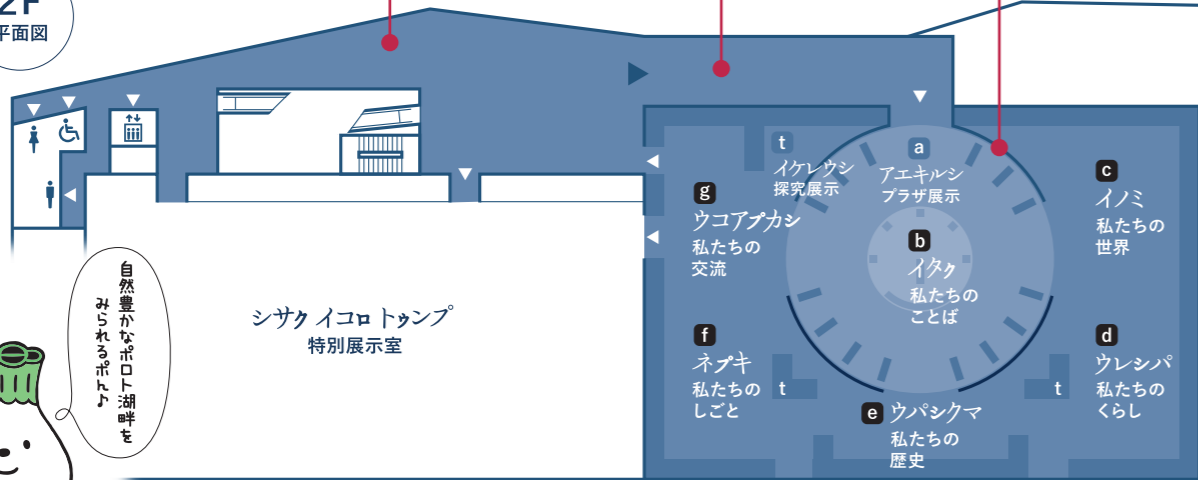


2F
平面図

インカラ ウシ
パノラミックロビー

イアシケウク
導入展示

イコロ トランプ
基本展示室



【パノラミックロビー】

博物館2階のパノラミックロビーは湖側全面がガラス張りになっており、伝統的コタンや体験交流ホールなどウボポイの各施設と、ポルト湖とその奥に広がる山並みが見渡せます。時間や季節によって変わる風景は、来館記念の絶好のフオトスポットにもなっています。ぜひ四季折々の景観をお楽しみください！



【導入展示】

日本を「単一民族国家」だと思っている人が意外と多いのですが、日本に住むさまざまな民族が、それぞれの言葉によるあいさつで、来館者を基本展示室にいざないます。先住民族であるアイヌ民族をはじめ中国語、韓国語、英語、ロシア語、タイ語などを話す人びとです。普段着で登場するウボポイの職員(写真中央の犬を連れた女性)は、アイヌ語であいさつした後、仕事で着る民族衣装に着替えて変身していきます。アイヌ民族の日常と、独自の言語や文化があることを伝える工夫を演出に込めました。もちろん日本語を話す和人も一民族として登場します。標準語と関西弁の2種類の「こんにちは」を聞いてみてください！



【基本展示室の歩き方】

基本展示室は、柱や仕切りがないひとつの大きな展示空間になっています。展示室の中央には六つの大テーマのひとつ「私たちのことば」コーナーがあり、その周りを取り囲むようにプラザ展示があります。プラザ展示を見れば「アイヌ文化の概略」がわかるようになっていますが、より詳しく知りたい人向けに、その周囲には五つの大テーマの展示が配置されています。各コーナー間は自由に行き来できるようになっているため推奨動線はありません。そのため、展示室のどこ



からでもどこどのテーマが展示されているかわかるように、プラザ展示上部に円環状の大テーマサインがあります。

【キャプションの内容】

キャプション(展示物の説明)には、その資料が何であるかをアイヌ語、日本語、英語、中国語(簡体字)、韓国語の最大5言語、アイヌ語が不明であったり、ないものは4言語で表示しています。資料の年代、地域、作者または使用者あるいは旧蔵者、遺跡名、原資料名等の基本情報が判明している場合は、下部に表示しています。民具資料については基本情報が不明なことも多く、その場合は空欄とし、推定情報は記載していません。また、他機関等の所蔵のものについては所蔵先も表示しています。



シクタ
ゆりかご
Cradle
揺籃
貝母
1966年 北海道日置製

【多言語翻訳】

ある文化特有の用語を、異なる文化の言葉に訳すにはさまざまな方法があります。たとえば、アイヌ語の「カムイ」を英語に訳す場合は、「Kamuy (spirit-deities)」のように、アイヌ語の音(kamuy)を借用し、英語の注釈(spirit-deities)を付けます。また、日本語の「削掛」を韓国語に訳す場合は、「削掛」という単語を「ヤナギ等の木を薄く削ってカール状になったもの」と言い換えた後、それを文章の中に組み込むという方法があります。当館では、2020年7月の開館以来、多言語翻訳の見直しを行っています。アイヌ文化のオリジナリティーを保ちながらも、それをいかにわかりやすく伝えるかが当館の多言語翻訳の課題です。

ウボポイのアイヌ語表示について紹介します。

見て見て! 館内サイン⑦

フンタ ホク スウォプ
発券機

「フンタ(札)」は、日本語からの借用語と考えられます。「ホク」は「～を買う」という言葉です。「スウォプ(箱)」は発券機の見目がいかされたよい表現だと思います。券をどう表現するかが焦点でしたが、「フンタ」を用いています。『アイヌ民話全集1 神話編I』※掲載の神話に、コタンコロカムイ(シマフクロウ)が、人間の世界を守るために「フンタ」を持たされて天から遣わされるという表現が見られます。

さて、一口にアイヌ語といっても方言差がある言葉もあり、「スウォプ」は方言差があります。スオプ、スポ、シポ、シボホ…これらは全て箱を指す言葉です。このように方言差があるため、サインでのアイヌ語にはどの地方の言葉を使用するかもあわせて検討する必要があります。(研究主査 中井貴規)

※杉村キナラブック述、中川裕校訂、大塚一美編訳、北海道出版企画センター、1990年



【漆器】

基本展示室は、六つの展示テーマで構成されています。漆器資料は、そのうち「私たちの世界」「私たちの暮らし」「私たちの交流」の三つにおいて展示されており、とても目を引きます。来館者から「どうしてたくさんの漆器があるのか」、「アイヌ民族は漆器をつくっていたのか」といった質問がよく寄せられます。

今から7百～8百年前の
 擦文時代の終わりに本
 州方面から鉄鍋や漆
 器がもたらされ、そ
 れまでの土器を使
 っていた生活様式
 が大きく転換した
 と考えられていま
 す。そして現在に
 至るまで途切れる
 ことなく数百年にわ
 たって漆器を取り入
 れた生活が営まれて
 きたのです。

では漆器をどのように手
 に入れたのでしょうか。本州など
 との交易で毛皮や魚介類などを
 移出したその代価として、あるいは松前
 藩や幕府からの贈り物として、そして漁場などで
 の労働の対価として入手していました。しかし、漁場など
 での労働量に比べて、その対価としては著しく低かったと
 考えられています。

アイヌ民族はさまざまな儀礼の中で、カムイ(神)に祈るとき、漆塗りの椀に注がれた酒を捧げます。あわせて漆器製の片口や盥、膳など祭具として使います。椀は儀礼とは別に普段使いの中でも使われてきました。また、チセ(家)の中で宝物を置く場所が決まっており、そこには数多の漆器があり、そこに積み上げられた行器や鉢などは、漆黒の輝きを放ち存在感を示していました。このように漆器は、アイヌ文化を形づくる重要な構成要素の一つとして、自らの文化の中に取り入れられてきました。なぜ漆器がこのようにアイヌ民族の生活に受け入れられたのでしょうか。その理由の一つに漆器の持つ独特の温かさがあるのではないのでしょうか。ヒマラヤで登頂を目指す登山家が、漆器製の食器を携帯していたことがあります。軽量で熱をほどよく伝え、丈夫という漆器の特長が、取り入れられた理由のようです。アイヌ民族の暮らしていた地域も同じように厳しい環境にあり、漆器を受け入れる素地が十分にあったといえます。

（研究学芸部長 藪中剛司）



タカイサラ(天目台)
 トウキ(杯)
 イクパスイ(酒を捧げる祭具)

探究展示 1 イナウとイクパスイ

イナウとイクパスイは、儀礼で欠かすことのできない祭具です。イナウはカムイへの贈りものとしての役割があります。イクパスイは、カムイにお酒を捧げるために使われる道具で、カムイに祈りのことばを伝えてくれます。どちらもカムイとアイヌをつなぐ大切な祭具です。それでは「カムイ」とはどんな存在でしょうか。このユニットでは二つの祭具の役割や使い方を、絵本を通して紹介するとともに、カムイについても説明しています。イナウとイクパスイの役割について知り、カムイとアイヌとの関係についても理解を深めてみてください。

二つの祭具やカムイ、儀礼に興味を持ったら「私たちの世界」の展示や映像もぜひご覧になってみてください。

儀礼に参加しているひとりが、イクパスイでお酒をイナウに捧げている様子。
 A scene at the ritual drop sake onto snow using ikupasai.

この二つの祭具は、いつでも・だれでも触れるわけではありません。そのため、このユニットではケースに入れてイナウとイクパスイを紹介しています。

探究展示 2 タマサイ

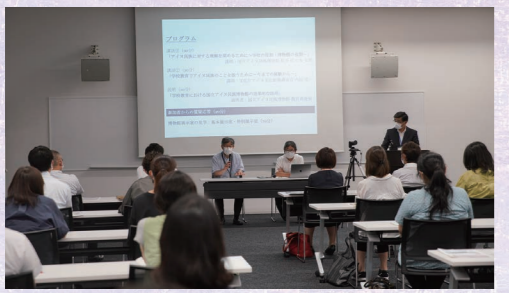
儀礼のときに女性が身に着けるタマサイ(首飾)は、「母から娘へ」代々大切に受け継がれる宝物です。タマサイには、和人や大陸との交易などで手に入れたさまざまな色・大きさの玉がつけられました。また、シトキと呼ばれる金属の飾り(鏡や刀の鏝など使用)が下部につなげられたタマサイもあります。ひとくちに「タマサイ」といっても多様性がありますが、いろいろなタマサイを見ていくと、つなぎかたに何か「タマサイらしさ」のパターンのようなものを感じられるかもしれません。このユニットでは、さまざまな種類の模型の玉を組み合わせてタマサイを作ることができます。体験をするときには見本の写真をもとに玉の組み合わせを考えて、組み立てあがったら、胸に当てて写真を撮ってみてください。(エドキュレーター 今野彩)

「タマサイ」ユニットの前にある引き出しには、大切に受け継がれているタマサイがあります。ほかにも、基本展示室ではいろいろなタマサイを展示しています。実物のタマサイを見ながら、タマサイの大きさを感じ、重量を想像してみてください。

イケレウシテンパテンパ
 探究展示テンパテンパ
 ⑤
 「テンパテンパ」は、アイヌ語で「きわってねの
 意味、体験を通してアイヌ文化にふれること
 ができる、大人も子どもも楽しめるコーナーです。
 それぞれの体験ユニットをエドキュレーター
 が紹介します。

【教育普及活動報告】「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」 2021年8月2日(月)

学習指導要領の改訂(小学校は令和2年度、中学校は令和3年度より全面実施)により、学校教育におけるアイヌの歴史・文化等に関する教育の充実が図られています。そこで、教員向け研修会として、「教員のための博物館の日 at 国立アイヌ民族博物館」を初めて開催しました。当日は、現地・リモート合わせて66名の参加がありました。



- 【ねらい】**
 ○アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進し、学校における教育活動の活性化を図る。
 ○国立アイヌ民族博物館の特色に対する教員の理解を深め、博物館学習等、学校と博物館の連携強化に資する。
- 【プログラム】**
 ○講話1「アイヌ民族に対する理解を深めるために～学校の役割・博物館の役割～」
 講師：国立アイヌ民族博物館 館長 佐々木史郎
 ○講話2「学校教育でアイヌ民族のことを扱うために～今までの経験から～」
 講師：文化庁 アイヌ文化振興調査官 内田祐一
 ○説明「学校教育における国立アイヌ民族博物館の効果的な活用」
 説明者：国立アイヌ民族博物館 教育普及室
 ○参加者からの質疑応答
 ○博物館展示室の見学(基本展示・特別展示)
 参加した方々の質問やアンケートには、「どこまで、どのように教えたらいいか」など、授業実践上の課題や悩みが多く寄せられました。
 今後も、学校と連携し、アイヌの歴史・文化等に関する教育の充実を推進してまいります。(教育普及室長 岩井真二)

ここに注目! 私たちの暮らし 「各地の鶴の舞」

北海道内各地に伝えられている「鶴の舞」(サロルンリムセ)。その歌の内容や節回し、踊りには地域差や個人差がみられます。「私たちの暮らし」のコーナーの壁面大型画面では、阿寒アイヌ工芸協同組合、帯広カムイトウポガ保存会、静内民族文化保存会、平取アイヌ文化保存会の協力のもと、四つの地域の踊りを紹介しています。各地域の鶴の舞の特色をぜひご覧ください。アイヌ古式舞踊は国の重要無形民俗文化財に指定され、現在道内の18団体が保護団体として保存と普及の活動を行っています。さらにユネスコ無形文化遺産にも登録されています。(研究主査 宮地鼓)



アイヌ民族に関するビーズと世界のビーズを一堂に展示した、国立アイヌ民族博物館第3回特別展示／国立民族学博物館巡回展『ビーズ アイヌモシリから世界へ』が10月2日から12月5日まで開催されました。展示会の会期中には、来館者にビーズをよりよく知ってもらうため、関連イベント（シンポジウム・講演・製作イベント）を当館で行いました。シンポジウムでは、さまざまな分野で活躍する研究者が集まり、ビーズが持つ魅力について語り合いました。展示品の製作者も参加し、創作に関する思いを披露しました。また、当館のホリデーイベントの一環で行った製作イベントでは、アイヌ民族の首飾り「タマサイ」を模したアクセサリーづくりも開催しました。

シンポジウム

1 アイヌ博×民博共催オープニングイベント
『世界のビーズ アイヌのビーズ』
10月3日（日）14:00～17:00

- プログラム：(趣旨説明) 国立民族学博物館 教授 池谷和信
- ①報告「アイヌのビーズ」
「現代のタマサイと創作について」
彫金作家 下倉洋之、国立アイヌ民族博物館 学芸主査 北嶋由紀
[コメント] 国立民族学博物館 教授 池谷和信
- ②報告「世界のビーズ」
「シベリアの先住民コリャークのビーズ細工—トナカイ毛皮からガラスまで—」
富山大学 教授、北海道立北方民族博物館 館長 呉人恵
「北方地域先住民のビーズ素材と変化」
国立民族学博物館 准教授 齋藤玲子
[コメント] 国立アイヌ民族博物館 研究主査 宮地鼓
- ③全体討論
「世界のビーズ、アイヌのビーズ」

2 国立アイヌ民族博物館シンポジウム
『2万年続くビーズアイランド 旧石器から近世までの北海道のビーズ史』
10月23日（土）14:00～17:00

- プログラム：(趣旨説明) 国立民族学博物館 教授 池谷和信
- ①報告
「北海道におけるビーズのはじまり」
国立アイヌ民族博物館 研究主査 鈴木建治
「北海道におけるガラス玉の展開」
様似町教育委員会 学芸員 高橋美鈴
「シトキの成立と発展」
札幌国際大学縄文世界遺産研究室 室長 越田賢一郎
「ガラス玉の流通を支えた北東アジアの動向」
函館工業高等専門学校 特命教授 中村和之
- ②コメント
「考古学からみた北海道のビーズ史」
北海道大学 助教 高倉純
「世界のビーズ史からみた北海道の特徴」
国立民族学博物館 教授 池谷和信
- ③全体討論
「ビーズからみた北海道の歴史」



全体討論の様子(10月23日)

3 みんなくビーズ研究最前線①
『ビーズの魅力を探る その1：玉からみたアイヌモシリ』
10月24日（日）14:00～17:00

- プログラム：(趣旨説明) 「アイヌモシリから世界へ」
- ①報告
「台湾原住民のビーズ文化：世代をつなぐ伝統と創造の力」
国立民族学博物館 教授 野林厚志
「タマサイからみたアイヌ文化」
弘前大学 教授 関根達人
「アイヌのガラスビーズ受容による生業システムと社会的変化」
国立民族学博物館 名誉教授 大塚和義
- ②コメント
「日本考古学と北方地域」
国立歴史民俗博物館 教授 藤尾慎一郎
「民族考古学と千島アイヌ」
北海道大学 教授 手塚薫
- ③全体討論
「ビーズからみた北海道史、人類史」



シンポジウム
報告者の
集合写真
(10月24日)

4 みんなくビーズ研究最前線②
『ビーズの魅力を探る その2：玉と文明』
11月6日（土）14:00～16:30

- プログラム：(趣旨説明) 「近現代の社会とビーズ」
国立民族学博物館 教授 池谷和信
- ①報告
「石の道とビーズ生産：南アジアからの視点」
秋田大学 客員研究員 遠藤仁
「ガラスの道で出会ったビーズの魅力、江戸期に制作されたトンボ玉の魅力」
津田塾大学 名誉教授 加納弘勝
「ガラスビーズとアフリカの人々：ケニアの牧畜民サンプルの事例から」
東洋大学 准教授 中村香子
「とんぼ玉とビーズ—その魅力を探る—」
KOBETONボ玉ミュージアム、ジャパンビーズソサエティ 宮本恭庸
- ②コメント
上智大学 准教授 戸田美佳子
文化庁 アイヌ文化振興調査官 内田祐一
- ③全体討論
「玉と文明」



中村香子准教授の講演風景(11月6日)

講演

1 国立アイヌ民族博物館イベント
『ビーズ アイヌモシリから世界へ』
11月20日（土）14:00～15:30

- プログラム
- ①講演
「ビーズ アイヌモシリから世界へ」
国立民族学博物館 教授 池谷和信
- ②コメント
奈良文化財研究所 研究員 谷澤亜里
国立アイヌ民族博物館 研究主査 関口由彦
- ③全体討論
「ビーズ アイヌモシリから世界へ」



池谷和信教授の講演風景
(11月20日)

製作イベント

1 国立アイヌ民族博物館ホリデーイベント
『自分だけのタマサイをつくろう』
1回目／10月16日（土）11:00～11:40
2回目／11月13日（土）11:00～11:40



製作イベントでつくった
「タマサイ」アクセサリー

製作イベントの様子

National Ainu Museum and
National Museum of Ethnology
Joint Special Traveling Exhibition
BEADS from aynu mosir
to the world

調査研究最前線

1

苫小牧市で発見された丸木舟

2021年1月から2月にかけて白老町の東隣に位置する苫小牧市の海岸で、2艘の丸木舟が発見されました。それぞれ全長610cmと460cm。どちらも舟側面の上縁に穴が開けられていることから、主に海や大きな河川で使っていた板綴舟(イタオマチブネ)であると考えられます。そこで国立アイヌ民族博物館と苫小牧市教育委員会は8月に「苫小牧市が所有するアイヌ資料を対象とした共同研究の実施及び成果物の管理と利用に関する覚書」を締結しました。

10月には丸木舟2艘を苫小牧市から当館へ移送し、資料保存のための脱塩処理を開始しました。今後、共同で年代測定などの科学分析をはじめとする調査研究を進めていきます。

(研究主査 鈴木建治)



海岸で発見された舟(2021年2月撮影)



当館に設置した水槽で脱塩処理へ

第69回全国博物館大会が開催されました

2021年11月17日・18日の2日間にわたり、札幌市で第69回全国博物館大会が開催されました(主催:公益財団法人日本博物館協会、共催:北海道博物館協会)。本大会は「博物館法制定70周年記念大会 文化の多様性をつなぐ博物館」をテーマとし、博物館をめぐる文化の多様性を中心に自然や地域との関わり、そして災禍と持続可能性など、博物館を取り巻く重要な課題についての多彩なプログラムが実施されました。

アイヌの歴史・文化を学び伝えるナショナルセンターとしてウポポイとその主要施設である当館が設立されたことを受け、大会中に当館佐々木館長によるウポポイと当館の紹介特別講演のほか、会場内においてブース展示を行いました。さらに分科会1「博物館と文化の多様性」を企画し、道内の博物館の学芸員等を講師に迎え、調査研究、収集資料の対象となる文化だけでなく、展示の仕方のほか、来館者や博物館を担う側など、さまざまな観点から博物館における多様性について報告いただきました。参加者からも多くの質問や意見が寄せられ、多様な文化が共存する社会での将来に向けた博物館のあり方について考える契機となりました。当館では、アイヌ文化、先住民族文化を中心に、幅広い多様性と共生の実現に向け、今後いろいろな取り組みを目指していきます。

(研究主査 宮地鼓)



分科会1「博物館と文化の多様性」
コーディネーター：国立アイヌ民族博物館 館長 佐々木史郎
報告1「アイヌ民族の芸術から考える博物館の今後のあり方」
国立アイヌ民族博物館 学芸員 押野朱美
報告2「北海道立北方民族博物館の活動と多様性」
北海道立北方民族博物館 学芸主幹 笹倉いる美
報告3「地域の文化と担い手の着目」
北海道博物館 学芸員 尾曲香織
報告4「アール・ブリュットが教えてくれた多様性の魅力」
ポーダレス・アートサポート北海道BASH 代表 菊地雅子



ブース展示



ウポポイへの入場は 事前予約制です。



『イカラウシ工房』

工房では、アイヌの手仕事に関する解説とともに、つくり手による民芸品製作をご覧いただきながら、ものづくりの体験をすることもできます。

木彫体験「イヌイェアン ロ」では、オッカイカラペ(男の手仕事)の話聞きながら、木製のスマホスタンドにアイヌ文様を彫る体験も楽しめます。刺繍体験「イカラカラアン ロ」ではメノコカラペ(女性の手仕事)の一つである縫いについて学びながら、コースターやマスクなどのアイテムにアイヌ文様の刺繍をすることができます。ほかにも「ムックリ アカン ロ」ではムックリ製作に挑戦できます。

さらに、土日を中心に、北海道内の伝統技術伝承者による民芸品の製作実演イベントもあります。各地域において長く受け継がれてきたさまざまな技術を間近に見学できます。

※各プログラムのタイムテーブルはウェブページでご確認ください。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部内容を変更して実施している場合があります。



木彫体験「イヌイェアン ロ」



刺繍体験「イカラカラアン ロ」



STEP 1 博物館への事前予約

博物館に入館する場合は、必ず事前予約をお願いいたします。

当日、予約なしで博物館への入館はできませんのでご注意ください。

国立アイヌ民族博物館では、館内にいる人数を常時200人程度に保つため、1時間刻みの予約制としています。オンライン予約で「博物館 入館整理券」を発行してください。

オンライン予約の状況をご確認後に、ウポポイ入場券の購入をお勧めしています。

博物館への予約は
こちら



<https://www.e-tix.jp/nam/>



国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

次回展覧会 ◎ 交流室展示「ケレ ヤン、ヌカラ ヤン、ヌ ヤン さわる、みる、まき、国立アイヌ民族博物館」

会 期：[第2期] 2022年1月29日(土)～2月27日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては変更する場合があります。

会 場：1階 交流室B

観覧料：無料

博物館を“みる”だけでなく、“さわって”、“聞いて”楽しむ展示です。ウポポイ園内での関連イベントも開催します。詳しくは、当館ウェブサイトでご案内しています。



チェッケレ(鮭皮の靴)

次回展覧会 ◎ テーマ展示「地域からみたアイヌ文化展 白老の衣服文化」

会 期：2022年3月15日(火)～5月15日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては変更する場合があります。

会 場：2階 特別展示室

観覧料：無料

本展覧会では、「家系で受け継がれてきた衣服」から「地域で受け継ぐ衣服」、そして「多様化していく衣服」への変遷について、白老の独自の衣服文化として広く知られているルンペに焦点を当てながら紹介します。



衣服(木綿)

※別途、博物館への事前予約とウポポイの入場料が必要となります。
※詳しくは、当館ウェブページをご覧ください。

STEP 2 入場券の事前購入

入場券	料金 (税込)	入場日 の予約
1日券	大人 1,200円 高校生 600円	オンライン購入時に日付を指定
年間 パスポート	大人 2,000円 高校生 1,000円	入場日予約券(無料)を発行。オンライン予約で日付を指定
入場無料	中学生以下 障がいのある方、 その介助者(1名)	

1日券購入は
こちら

年間パスポート
購入はこちら



◎休館日

月曜日および年末年始(12月29日～1月3日)
※祝日または休日の場合は翌日以降の平日



■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)
住 所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号
電 話：0144-82-3914 FAX:0144-82-3685
メール：info@ainu-upopoy.jp

ウポポイに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>



<https://nam.go.jp/>

※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」の意味です